



海神会だより

〒658-0022 神戸市東灘区深江南町5-1-1 神戸大学深江キャンパス内 海神会事務局



海事科学部発足10年を迎える前に

神戸大学 大学院 海事科学研究科長

神戸大学 海事科学部長

小田 啓二



平成21年4月に学部長／研究科長を拝命し、もうすぐ4年が経ちます。ようやくこの段階となって、任期中にやるべきことの大半を進めることができたのではないかと、新年を迎える前に振り返っているところです。

就任直後は、引き継ぎ案件の処理、学部内運営体制の整備及び学外の付き合い等で手一杯でしたが、現状認識、即ち、入学偏差値の伸び悩み、学生の授業満足度の低さ、研究業績・獲得外部資金の伸び悩みという内部の問題と、卒業生の資質に対する就職先企業（特に船社）の評価の低さや学部特徴のアピールが期待以下であるという外部の低い評価を踏まえ、「神戸大学の真の一員になる」ことを目指した自己改革を行方針を固めました。全教員に対する意見募集を経て、学科組織変更の検討を開始することを決断し、この後2年半の議論を繰り返し、ようやく平成25年度から新学科体制で臨むことになりました。

改組の概要は海神会総会や海洋会誌などでも紹介させて頂いております。航海・機関・物流・海洋機械など、商船大学時代から担ってきた分野を2つの学科（「グローバル輸送科学科」と「マリンエンジニアリング学科」）で継承・発展させる一方、海洋基本計画に対応するため新学科（「海洋安全システム科学科」）を設置し、従来の3学科で個別に実施してきた環境科学、エネルギー科学、安全科学などの教育研究要素をひとつにまとめて整理・統廃合とともに、不足する科目の新規導入と各科目内容の強化により、新しい体系の構築を図ることを目指したものです。

また、改組とともに教育体系やカリキュラムもいくつかの改善を図っています。まず、学生の選択の機会（入学後の学科選択、基礎ゼミ教員の選択、コース選択、3年次の転学科・転コース、3年次後期からの総合ゼミ及び研究室仮配属、4年次の特別研究選択）を出来るだけ多く提供するよう工夫しております。これは進路選択を遅らせがちな最近の若者の風潮へ対応するとともに、自分の選択に責任を持つということを教えるという意図があります。入学後の1年次は、これまで通り週4日は六甲台キャンパスで全学共通科目を多学部学生と一緒に学びます。課外活動も含めた様々な価値観を持つ仲間との交流は総合大学の最大のメリットであり、総合的な視点を養うという意味でも重要な機会と位置づけていま

す。多くの方々から指摘のある英語教育についても改善を図りました。学部共通科目としての英語科目を倍増するとともに、専任外国人教員を増員しました。TOEIC受験への経済的支援と特別講習会開講に加え、学科／コース選択・研究室選択・大学院入試等へのTOEICスコアの利用などの動機付けも強化しました。

こうした学科改組のための準備と同時に、大学説明会や高校訪問を強化したり、新聞などのメディアへも対応するなど、広報活動にも力を注ぎましたので、恐らく次期入学生の偏差値はアップするはずです。

しかし未だ準備は完了しておりません。——最後の段階は我々教員の「心構え」です。

卒業生の資質に関する指摘を耳にしますが、本学部入学者の偏差値は微増を続けており、日本全体の中での相対値で言えば、およそ30～40年前の商船大学レベルに戻っているかそれより上になっています。学生の素養は既にそのレベルであり、例えば、コミュニケーション能力や問題解決能力などについて絶対的評価が低いのは、社会風潮も含めて別な原因だと思います。そうした学生を入学後に如何に伸ばしていくかが我々の課題です。今まで通り、あるいは自分が学生時代に受けた教育（内容及び教え方）をそのまま現在の学生に適用する訳にはいきません。海技者養成教育についても、他の教育機関とは別次元の高度化を目指すべきです。我々教員の気持ちを切り替え、一層の努力を覚悟しなければなりません。また、こうした自己改革と並行して、新カリキュラムへ対応するため、この2年間で有為な人材10名を新規に採用します。

「人心の一新」——これが私の学科改組の本当の狙いでいた。

平成25年4月より新学科1期生が入学します。新カリキュラムと一新した教員組織の下でスムーズに船出させること、これが新学科10周年を迎える最大の準備だと考えています。

ご案内と予告・ご案内と予告・ご案内と予告

平成25年度海神会理事会・総会・懇親会の 日時、場所が決まりました。

日 時：平成25年5月25日(土)

理事会会場：総合学術交流棟梅木Nホール、14:00～15:00

総会会場：総合学術交流棟梅木Yホール、15:00～16:30

議 題：平成24年度収支決算、平成25年度予算、会長交代、活動報告など

懇親会：総合学術交流棟梅木ホール、16:30～18:00

尚、当日は深江祭と同時開催です。

ご案内と予告・ご案内と予告

平成25年度第8回ホームカミングデイは 10月26日(土)です。

海神会評議会も左記と同会場にて

当日13:00～14:00を予定しています。

どうぞ参加してください。お待ちしております。

参考用 同窓会総会及び懇親会に出席される方はFAX又はメールにて5月10日までにご連絡いただきますようお願い致します。

TEL/FAX : 078(431)6439

E-MAIL:almamata@maritime.kobe-u.ac.jp

参考用
参加申込先

同窓会の活動

平成24年度 第9回総会式次第

開催日時:平成24年5月26日(土) 15:00~16:30

開催場所:学内総合学術棟 1F 梅木Yホール

1. 開会
2. 会長挨拶
3. 議長選任
4. 議事録署名人の選出
5. 議案

第1号議案:平成23年度事業報告、収支決算及び監査報告について

第2号議案:役員(理事、会長、副会長)の選任について
第3号議案:平成24年度事業計画及び収支予算案について

6. 小田啓二海事科学研究科長より海事科学部の現状について
7. 各支部の活動報告
8. 事務局報告
9. 閉会

平成23年度 海神会 収支決算書

(単位:円 平成23年4月1日から平成24年3月31日迄)

科目	23年度決算額	23年度予算額	差異	備考
I.収入の部				
1.会費収入	7,180,000	6,300,000		
2.雑収入	291,083	1,000		
当期収入合計(A)	7,471,083	6,301,000	1,170,083	

平成24年度 海神会 収支予算書

(単位:円 平成24年4月1日から平成25年3月31日迄)

科目	24年度予算額	23年度決算額	差異	備考
I.収入の部				
1.会費収入	6,630,000	7,180,000		
2.雑収入	200	291,083		
当期収入合計(A)	6,630,200	7,471,083	△ 840,883	

II.支出の部				
1.事業費				
総会経費、会誌発行、送料等	1,268,061	1,380,000	△ 111,939	
HP維持、クラスと学部支援	1,148,759	1,180,000	△ 31,241	
関係団体、支部、部活経費等	1,308,720	1,340,000	△ 31,280	
小計(a)	3,725,540	3,900,000	△ 174,460	
2.管理費				
人件費、会議費、交通費等	1,418,000	1,605,000	△ 187,000	
印刷費、通信費、消耗品等	101,441	130,000	△ 28,559	
事務費、光熱費、雜費等	564,979	546,000	18,979	
小計(b)	2,084,420	2,281,000	△ 196,580	
3.予算費(c)	125,250	120,000	5,250	
当期支出合計(B=a+b+c)	5,935,210	6,301,000		
次期繰越収支差額(C=A-B)	1,535,873	0		

当期余剰金処分案	平成23年度
平成22年度前期繰越金	2,916,848
当期繰越金	1,535,873
次期繰越金	4,452,721

※収支決算書並びに予算書に於いて疑問点がありましたら事務局までお問い合わせください

平成23年度 海神会 特別会計 収支決算書

(単位:円 平成23年4月1日から平成24年3月31日迄)

科目	23年度決算額	23年度予算額	差異	備考
1.収入の部				
預金利息	128,543	100,000	28,543	
小計	128,543	100,000	28,543	
前年度繰越収支差額	31,551,853	31,551,853	0	
合計(A)	31,680,396	31,651,853	28,543	
2.支出の部				
学生自治・厚生関係	1,094,780	1,700,000	△ 605,220	1号館時計塔の時計新替
収支合計(B)	1,094,780	1,700,000	△ 605,220	
次期繰越収支差額(A-B)	30,585,616	29,951,853	633,763	

特別会計は、「海神会」の基金的性格のものと神戸商船大学学生自治会の処分財産を管理するものである
(注1)￥28,000,000は基金として置くものである
(注2)預かり金は旧神船大学生自治会の処分財産として大学から海神会に移された前期迄の預り金であり、海事科学部からの要請に基づき、海事科学部学生の自治と厚生関係を目的として支出するものである。次期繰越金は2,062,594円です

平成24年度 海神会 特別会計 収支予算書

(単位:円 平成24年4月1日から平成25年3月31日迄)

科目	24年度予算額	23年度決算額	差異	備考
1.収入の部				
預金利息	100,000	128,543	△ 28,543	
小計	100,000	128,543	△ 28,543	
前年度繰越収支差額	30,585,616	30,586,616		
合計(A)	30,685,616	30,715,159	△ 28,543	
2.支出の部				
学生自治・厚生関係	500,000	1,548,940	△ 1,048,940	
合計(B)	500,000	1,548,940	△ 1,048,940	
次期繰越収支差額(A-B)	30,185,616	29,166,219	1,019,397	

特別会計は、「海神会」の基金的性格のものと神戸商船大学学生自治会の処分財産を管理するものである
(注1)￥28,000,000は基金として置くものである
(注2)今年度支出予算額の￥500,000円は旧神船大学生自治会の処分財産として大学から海神会に移された預かり金の内、平成23年度繰越金、2,062,594円から支出されるものである。



第7回神戸大学ホームカミングデイへのご参加 ありがとうございました



広報・社会交流推進委員会
山内 知也

あちらこちらの路面が掘り返され建物の耐震改修工事が行われていた、最悪目に見てもかなり雑然としたキャンパスで、第7回目となる神戸大学ホームカミングデイ学部企画が実施されました（2012年10月27日）。企画の準備の段階から色々とご協力していただいた皆様、そして記念講演を快諾してくださいました平塚惣一様にこの場をお借りしてお礼を申し上げます。以下、当日の報告です。

ご案内の通り、次年度からの学科改組が決定しました。小田研究科長からの報告は、学部の現状と学科改組の目標とその進捗について非常にリアルなところを呈示していただきました。一連の報告は今回で4回目ですが、ある意味ではホームカミングデイにおける意見交換を踏まえた学科改組であると思います。卒業生を含めて学部のあり方についての意見交換が率直に行えていることは、そのこと自体が大きな成果であると思います（新たに生まれ変わる海事科学部をよろしくお願ひいたします）。

今回の在学生の研究発表の講師は、海事科学研究科博士課程後期課程のルアサンゼント・トゴスマさんでした。タイトルは『船底防汚剤の水環境へのリスク／銅ピリチオンの例』。燃費向上や二酸化炭素排出量削減のためには、船体への生物付着を防ぐ必要がありますが、毒性の高い有機スズ防汚剤に代わる代替防汚剤が開発されてています。トゴスマさんの発表は、銅ピリチオンの環境リスクに関する研究でした。銅ピリチオンの分解性や生態毒性についての紹介の後に、底質への吸着・底質からの脱着実験の結果が示され、物理的吸着であることが明らかにされました。また、ウキクサ葉状体増殖阻害実験等を通じて、底質に吸着した形態での環境リスクを評価する必要性が指摘されました。この研究は、価値ある学位論文にまとまると思われます。

記念講演としては、株式会社商船三井専務執行役員平塚惣一氏による講演『海技-理に適い説明のつく現場の方法論』が行われました。同氏は神戸商船大学の航海学科21期生です。

ご講演の内容は、「海技者とは何か」という議論に集約されていたと思います。一般論として「海技者」は、「乗組員としての乗船勤務経験がある者」、「海技免状を所有する者」、「船舶管理、運航管理、本船オペレーションなど『水際』での実務経験がある者」、「商船・水産系の教育を受けた者」等として捉えられています。しかしグローバルな競争の中ではその捉えられ方は随分と異なっていました。この講演からは、「世界の海技者の労働市場における競争力」という視点の重要性を感じました。実際のところ、「石油メジャー、大手船舶管理会社での実務経験は市場価値が高い」ということです。「管理レベルの乗組員としての経験を必須として社業の根幹である船舶の運航を陸上から管理すること、ならびにその関連する事業を展開するための知識と技術を備えた者」を「海技者」としているとのことでした。すなわち「海技者」のソースとして在るのが「当社運航船の船長・機関長として任用できる者」ということでした。このような「海技者」の捉え方が、海事科学部における今後の教育のあり方にとって重要なと思っています。ただ、「海技の伝承」に関連して少し触れられた「六分儀」についての話は、いろいろな解釈が可能かも知れませんが、示唆に富るものであったと思いました。

海神会と広報・社会交流推進委員会との協力がはじまって、4年になろうとしています。「かもめ会」との交流・協力も進んでいます。OBの皆さんとの声を、現役学生に伝えることが出来るような仕掛けを、今後もつくり出したいと考えております。今後ともよろしくご教授くださいますようお願いいたします。

問1. キャンパス全体の印象はいかがでしたか？

久しぶりに来て明るくなった印象です。／年々整備が進んでいると感じます。／もう少し緑化を進めて欲しい。芝生化す

るような方策も一つであろう。／植木の手入不足。／久しぶりに内に入りました。見違える程きれいになっていました。／道路が工事中の為か汚れている。工事終了後に期待しています。

問2. 今回の講演会を中心とした企画はいかがでしたでしょうか？

前に進もうとする気持ちは感じた。／学生の研究発表、МОЛ専務の講演はいずれも良かったと思います。／（1）平塚氏の講演はよかったです。（2）学生の講演の前に司会者が学生の紹介や研究内容の意義を説明した方がいいのではないか。／最高でした。学生の研究は少々専門的過ぎでした。／講演会大変有意義だった。他の学部の先生方の講演があれば面白い。例えば医学部。／初めて聴く内容ばかりで新鮮でした。

問3. 学部企画としてどのような内容を希望されますか？ ご提案でも結構です。

研究発表、1人ではなく短時間でもいいから複数研究テーマを発表してほしい。／もっと学生、院生の参加を求めてほしい。／同様のもの+運動クラブの記念試合。／航海以外の卒業生の講演。／ほとんどの皆様はOBの方だと思いますが、時代がすすんでいますと、学者のたたずまいも変わっていると思いますし、私の様に他学部の者にとっては、施設見学もあるとうれしいです。／今回同様現在活躍中の講師に講演いただけたらと思います。

問4. 学生・院生に向けてメッセージをお願いいたします。

どんな職業でも船に帰する技術・気持ち…を身に付けて欲しい。／自分を磨く、という気持ちを持って勉強を続けて下さい。／外を見てほしい。他学部との学生との交流を深めてほしい。／総合大学としてのメリットを享受してもらいたい。／平塚氏の講演は学生に聞かせるべき。／偏差値を上げる様に。／日本から世界へ羽ばたく。／英語の力をつける。／もっと海事社会の細かい部分（海上職）以外にも目を向けてみてほしい。

問5. 学部および教員に望まれることがありましたらご意見をお願い致します。

現場を知る機会に積極的に参加し、今の船を生徒に教えて貰いたい。／他学部との教育・研究上の交流を深めて欲しい。その様子をホームカミングデイ等で教えて欲しい。／他方面に進出して下さい。／イベントへの参加を積極的に行ってもらい、OBの人々にも紹介してほしい。／偏差値を上げる様に。／日本は経済的水域も含めますと、大変広い国となります。その海洋、海底に眠る海洋資源の開発のための船、知識、採掘技術なども大きな夢のある分野と存じます。そちらの方向へも進める人材の育成も大事なことではないでしょうか。

問6. その他、ご意見、ご感想、ご希望などを書き下さい。

ホームカミングデイ当日、食堂を開けてほしい。／海事科学部の記念講演会を楽しみに来ております。今後もよろしくお願いします。／お招き頂きありがとうございました。／小田学部長は今後も協力依頼。／学内外を清潔にして学問の府にふさわしい雰囲気を保ってほしい。



海事博物館寄贈に係る感謝状贈呈式

モデルシップ4基

寄贈者：川崎汽船㈱ 代表取締役社長

朝倉 次郎氏

出席者 同執行役員 門野 英二氏



- 1、ARCTI VOYAGER (LNG船)
- 2、AUSTRALIAN SEARDADER (コンテナ船) (写真上)
- 3、鈴川丸 (チップ船)
- 4、千早川丸 (鉱油船)

の4基のモデルシップが展示されました。

合わせ「深江丸」(写真左下) 1/40模型の寄贈が田中 敏一氏よりあり原子力船「むつ」(写真右下) のモデルシップも同博物館に展示されました。

※8月31日に船の科学館から原子力船「むつ」の模型が海事博物館に寄託されました。模型の搬送にあたりまして海神会には多大なるご協力をいただきました。海事博物館を代表しましてお礼申し上げます。なお、当館では「船の推力発展史-人力・風力から未来へ-」と題して、特別展示をしております。是非ご来館ください。

館長 矢野 吉治



関西支部だより

第30回海神会白鷗杯争奪ゴルフコンペ

第30回白鷗杯争奪ゴルフコンペが、平成24年10月25日(木)、垂水ゴルフ俱楽部(神戸市垂水区、パー70)で開催されました。

当日は、秋晴れの絶好のコンディションに恵まれ(気温21℃、湿度48%)、アウト6組、イン6組の42名が、ダブルペリア方式による18ホールストロークプレーで熱戦を繰り広げました。



プレー終了後、俱楽部ハウスにて表彰式と懇親会が執り行われました。

優勝はマニラから駆け付けてくださいました実力者の13N刈屋

澄世さんで、アウト44、イン42、グロス86、ハンディキャップ16.3、ネット69.7の成績でした。

成績上位者は次のとおりです。

		アウト	イン	GROSS	HDCP	NET
優 勝	13N 刈屋 澄世	44	42	86	16.3	69.7
準優勝	6N 田中 宏樹	43	42	85	12.8	72.2
3 位	14E 佐原 茂雄	47	47	94	21.0	73.0
4 位	6N 米田 翼	50	50	100	26.8	73.2
5 位	21E 渡邊 幸司	50	50	100	26.8	73.2

ベスグロは16Nの森口俊樹さんで、アウト43、イン39、グロス82の見事な成績でした。

毎回各方面から支援をいただいておりますので、ここに紹介と御礼を申し上げます。

ロマン会様、伊東様(5N)からは多額の寄付、三浦様(1E)からはMCCカレーセットを余田様(6N)からは有馬大黒屋佃煮、安く提供していただいております。また、今回は30回の記念大会ということで宮地様(1N)から豪華賞品をいただいております。ありがとうございました。

来年も10月中旬頃に垂水ゴルフ俱楽部で開催する予定です。同窓生の皆様の多数の参加をお待ちしております。

以上



男子端艇部(主将：山本 海渡) 海事科学部海事技術マネジメント学科航海分野3年

1. 支援金の使途（概要）：連盟会費・活動費
2. 部員数：23人（1年：7人・2年：9人・3年：7人）
3. 活動状況
第56回全日本カッター競技大会「第6位」
第58回西日本新人カッター競技大会「第6位」
4. 海神会へひと言

海神会からご支援をいただき部員一同心より感謝いたします。昨秋、神戸大学の担当で芦屋浜沖にて開催しました第58回西日本新人カッター競技大会では6位という残念な結果になり、とても悔しい思いをしました。今年5月に防衛大学校の担当で開催予定の全日本カッター競技大会では優勝を目指します。良い結果を報告できるように一丸となって精一杯頑張ります。



女子端艇部(主将：上野 ゆづき) 海事科学部海事技術マネジメント学科航海分野3年

1. 支援金の使途（概要）：連盟会費・活動費
2. 部員数：10人（1年：4人・2年：3人・3年：3人）
3. 活動状況
第34回神戸港カッターレース「優勝」
第56回全日本カッター競技大会「準優勝」
第58回西日本新人カッター競技大会「第3位」
4. 海神会へ一言

私たちが日々の練習活動を行えるのは海神会の皆様からのご支援のおかげです。4名の新入部員を迎え、今年は全日本大会での期待も高まっています。皆様からの熱いご声援に応えられるように頑張ります。



硬式野球部(主将：森永 崇太) 海事科学部マリンエンジニアリング学科3年

1. 支援金の使途（概要）：大会費（年二回のリーグ戦費）
2. 部員数：14名（1年：7人・2年：5人・3年：2人）<男子:13人・女子:1人>
3. 活動状況
2011年度秋季リーグ「6位」(1勝9敗)
2012年度春季リーグ「6位」(1勝9敗)
2012年度秋季リーグ「6位」(0勝10敗)
4. 海神会へ一言
今後も海神会からの支援を無駄にしないよう、リーグ戦で上位に入れるように努めます。
皆様のご支援とご声援に感謝いたします。



オフショアセーリングクラブ(主将：梅谷 圭吾) 海事科学部マリンエンジニアリング学科2年

1. 支援金の使途（概要）：全国大会及び世界選手権出場への積立金
2. 部員数：33人（1年：14人・2年：9人・3年：10人）<男：27人・女：6人>
3. 活動状況
レース、クルージングを問わず積極的に活動しています。主な活動は5月の神戸まつりヨットレース、深江祭、8月には夏クルージングの一環として大阪湾を縦断し徳島までの往復、阿波証券カップ出場、3月の全日本学生外洋ヨット選手権大会（ANIORU'S CUP）です。
ANIORU'S CUPで優勝することにより出場が可能になる中日韓親善キールボートレガッタには2008年度から2011年度にわたって4年間連続出場し、Student Yachting World Cupへは2008年度と2011年度に出場しました。
4. 海神会へ一言
毎年、ご支援をありがとうございます。これからより一層活動を盛んにし、神戸大学の名に恥じぬように日々努力して頑張ります。ご声援をよろしくお願いします。





航海科7期生 卒業50周年記念クラス会

1962年に深江の学び舎を巣立った航海科7期生は卒業50周年となる2012年10月11日、12日に六甲山麓の「しあわせの村」に計30名が顔を揃え記念クラス会を開催した。



クラス会は11日のゴルフ、講演会、そしてメインの懇親会、翌12日は懐かしい深江キャンパス及び統合した神戸大学の六甲台キャン

航海科7期 赤塚 宏一

バスの見学、さらにその夜はトコトン会と称して、有志がそれこそトコトン語り合う機会をもつなどまさに盛り沢山のプログラムであった。

又、私達は卒業50周年を記念して記念文集を作ったが、編集者の予想よりもはるかに多くの原稿が寄せられ、結果的にA4版156ページの立派な冊子となった。

学生時代の想い出話や、隨想、エッセいや趣味の話も多いが、なかには船長としての人命救助、パイロットの現場の状況、捕鯨の話、日本の船舶管理業の創成期にあって奮闘した記録、イラン・イラク戦争の体験、VLCCの操船、内航海運の近代化に努力した記事など、過ぎし50年の日本海運を、そして商船大学を振り返る時の何程かの資料と成りうるのではないかと密かに自負するところである。

最後になりましたが海神会からの多大のご支援に厚く感謝致します。有り難うございました。

出席者

青木 譲二	赤塚 宏一	井土 紀六	石破 龍夫	磯谷 好功
稻葉 八洲雄	岩城 晃	上田 駿峯	鎌田 保夫	河原 康彦
隈 弘恵	高祖 健一郎	斎藤 泰	塩見 明一郎	柴田 康彦
庄野 茂樹	田中 経彦	竹花 秀雄	津田 稔修	辻井 圭介
徳丸 順	平倉 浩一	福知 武	細川 敬	森 明生
森田 秀彦	森本 靖之	山崎 重勝	吉田 肇	吉山 敬



機関科7期 七洋会 卒業50周年

7月7日、卒業50周年記念クラス会を無事開催いたしました。当日は梅雨の中休みで、大学正門に21名が集まり、深江丸・矢野船長殿が休日出勤を賜り、海事博物館、深江丸を隈なく案内頂きました。

さらに、マネジメント学科4年、山下さんのご好意で白鷗寮にご案内頂きすっかり大改造された寮を見学して、ようやく商船大学は無くなつた、と全員が理解できました。

中寮(旧・301号室)を見せてもらいましたが、昔の部屋をぶち抜いて1室に個室が4室、風呂・台所・洗濯が個々の部屋に完備され、全員が食事をした食堂も風呂も使用されていない現状は、我々の時代の大学と寮が一体となった教育施設ではなくなつておらず、改めて神戸大学の一学部だ、との感想が多く聞かれました。

夕刻、三宮(神仙閣)に30名が集合、卒業50周年を楽しく過ごしました。やはり、5名の仲間が開催間際までに参加できない旨本人や奥さんから連絡があり、またご高齢の向原先生にも丁重な案内を送りましたが、街には出かけられないとのお断りがありました。来年以降の七洋会開催に関しては、



七洋会 卒業50周年記念会 機関科7期 鍵田 宏一

50年続いた(7月7日開催)には拘らない

阪神地区の忘年会・新年会は開催する

京浜分会も適宜開催する

そして、七洋会は(季節の良い時期)に関西に拘らず開催する、が大方の皆さんのお意見でした。

来年は京浜分会幹事の(横浜一泊)、または畠さん幹事の(長崎一泊)が候補として挙がっております。

皆さんのご意見を適宜ご連絡頂き、開催地、幹事を決めてゆきたいと協力をお願いします。



KUC37会(昭和37年卒業)卒業50周年記念大会開催

一神戸大学基金に528.2万円寄付と記念植樹・石碑を神戸大学に寄贈

航海科7期 赤塚 宏一

を二つの柱に掲げて卒業50周年の記念大会を行いました。6月2日の大会当日には350人が参加して各行事がおこなわれました。

六甲台記念講堂での総会では菅正徳実行委員長より福田秀樹学長に神戸大学基金への寄付金500万円の目録が贈呈されました。(後日の集計で528万円に達しています) また、神戸大学本館前庭に記念植樹とKUC37会を構成する7学部名および2大学名を記した記念石碑を寄贈しました。

次頁に続く

昭和37年卒業に卒業した7期生と神戸大学の文学部・教育学部・法学部・経済学部・経営学部・理学部・工学部の7学部、さらに同年卒業の兵庫農科大学(現農学部)の卒業生からなるKUC37会は、さる6月に卒業50周年大会を開催しました。

卒業20周年をスタートして5年毎に行ってきた周年行事も今回7回目を迎える大きな節目としての50周年では、①神戸大学基金に対する寄付と②今までどの卒業年次も作成していない記念誌作成



正門前大階段での参加者全員の記念撮影の後、BEL BOXにおいて懇親会を行い、散会時には参加者全員に卒業50周年記念会誌「この丘陵（おか）に」と記念集合写真を配布いたしました。記念会誌「この丘陵（おか）に」には5人の7期生が寄稿しています。

当日の様子は下記でご覧いただけます。
<https://www.dropbox.com/sh/a6fidcx1mojsvt9/TRfkZshG4i/KUC37会50記念大会>

当日午前中には、希望者が深江学舎にある海事博物館と停泊中の練習船深江丸の見学を行い、それぞれ柴田康彦氏（航海

科7期生）及び矢野吉治船長の案内・説明を受け大変好評でした。その後3台の貸切バスに分乗して各学部のキャンパスツアーを行い、現役女子学生の案内付きで六甲台ならびに鶴甲周辺の神戸大学の学舎をはじめ神戸大学キャンパスの現在の姿を巡回しました。

また、大会行事の行われた6月2日に相前後して、アカデミア館2階のオープンアカデミーにおいては、11日間にわたりKUC37会のメンバーによる作品展示会ギャラリーが開催され絵画・写真などの秀作が展示されました。



神戸商船大学17期生 卒業40周年記念同窓会

2012年10月6日(土)17時より、新神戸駅前のANAクラウンプラザホテル神戸にて17期生卒業40周年記念同窓会懇親会を、恩師井上篤次郎先生と津島孝雄先生のご臨席を賜り、総勢63名（恩師2名、航海学科38名、機関学科23名）の参加の下、賑やかに行なわれました。懇親会に先立って、当日の午前中にはゴルフコンペが催され、また、当日の昼から（懇親会開始前）、現在は神戸大学海事科学部・大学院海事科学研究科となった深江キャンパスの施設見学会（海事博物館、船舶運航シミュレーター（船橋及びエンジン・シミュレーター）、深江丸）を行いました。

懇親会では、会うのは40年ぶりの者も多く、各自の名札には「入学時の顔写真（紅顔可憐な美少年）」と「名前」を表示し、「名前」と「写真」、そして「白髪か禿げ頭の顔」を見比べ、嘗ての紅顔可憐な美少年を思い出して頂きました。懇親会の冒頭、同期生で亡くなった者（航海学科5名、機関学科8名）へ哀悼の意を表して黙祷が奉げられました。その後、井上篤次郎先生と津島孝雄先生からご挨拶を頂き、そして一番遠方のハワイから同窓会に駆けつけた中崎君の乾杯で懇親会が始まりました。一旦、会が始まると40年の歳月は嘘のように、そして時の過ぎるのを忘れたように各テーブルで賑やかに懐かしい昔話や現在の



航海学科17期生 石田 廣史

話など、話の花が咲きました。お土産には、昔と今のキャンパスの航空写真や入学時の集合写真、そして、船やエンジン、手旗、錨、神戸港などをデザインした特別に製作された絵葉書が配られました。もう皆さんそろそろ歳なので、ウイスキーはあまり飲まない（他の飲み物は制限なし）と予想していましたが、予想以上に飲兵衛がまだ健在で、懇親会の予算をオーバーした次第です。

参加者には、撮影担当の吉本君が同窓会で映写された学生時代の色々な写真や、同窓会懇親会での写真や映像などを取りまとめ、カーペンターズの歌をBGMにしたDVDがクリスマスプレゼントとして送られました。クリスマス～年末年始は、このプレゼントされたDVDを楽しみながら17期生一同は心身とも若返り、嘗ての紅顔可憐な美少年（？）に生まれ変わります。

以上



デッキ、エンジン27期、アトム7期 合同30周年記念同窓会のご報告

今春から、神戸商船大学27期デッキ 見上 憲男君を実行委員長に、デッキ、エンジン、アトム合同の30周年記念の同窓会の計画が進められてきました。この計画については、10月27日の海神会においてご承認、ご支援をいただくこととなりました。誠にありがとうございました。

そして、11月17日(土)、30周年記念の同窓会行事を参加者総員57名にて無事終えましたので、ここにご報告申し上げます。

当日は、低気圧とそれに伴う前線の影響で朝から降りしきる雨の中、天候をものとせず、植樹祭の参加者が続々と懐かしい深江キャンパスに集ってきました。

海事博物館のご厚意により、博物館のエントランスを待ち合わせ場所として開放していただき、誠にありがとうございました。お蔭をもちまして待ち合わせの間、雨に濡れることもなく旧交を温めることができました。

定刻の14時から、正門東側にて卒業30周年の記念の植樹祭が執り行われ、「オリーブの木」を植樹いたしました。

その後、海事博物館エントラ



航海学科27期生 細山 和也

ンスにて酒がふるまわれ、しばし歓談の後、総合学術交流棟に場所を移して記念撮影や開学からの歴史の展示の見学を行い、次に、15時から希望者による懐かしの白鷗寮の見学を行いました。

17時からは、いよいよ神戸ハーバーランドのホテル クラウンパレス神戸にて記念の懇親会が開催されました。卒業から30星霜の月日はいかんともしがたく、顔と名前が一致しない面々もありましたが、酒宴が進むとともにあつという間に学生時代にタイムスリップし、近況報告や3択クイズなどで盛り上がった懇親会はあつという間に予定の2時間が過ぎ去りました。

最後に、神戸商船大学寮歌をはじめ、白菊の歌、サニ公節など肩を組み、体をゆすりながら高吟し、記念撮影で終焉となりました。

紅顔可憐な、
永遠の美少年たちは、その後、2次会、3次会へと夜のじまに消えて行きました。





外国航路よもやまばなし 第3回目

神戸大学 KOBE UNIVERSITY STYLE に掲載する事になっていましたが、検討が長くなっているので再度連載させて戴きます。



神戸高等商船航海科43期生

村田 悅雄

4. 外地で感激したこと

昭和59年ドイツのエルベ河を遡りハンブルグに向かう途中、ハンブルグの少し下流のところにウエルカムポイント(歓迎地点)というところがある。本船がここにさしかかったところ、この地点の旗ざおに、するすると日本の国旗が揚がり、君が代が流れ「日本船～丸の皆様、長らくの航海、ご苦労様でした。ようこそハンブルグにいらっしゃいました……」と、日本語がマイクで放送された。本船は、出てから6ヶ月もっぱら大西洋方面の三国間航路に従事しており、外地で聞く、君が代と日本国旗を見て、涙が出るほど嬉しく、その日、1日中は何だか気分爽快であった。

また、やはり昭和59年ブラジルのサンタスで接岸していた本船のすぐ近くに、海上自衛隊練習艦隊「かとり」「なつぐも」が入港接岸し、自衛艦にひるがえる軍艦旗(自衛艦旗)を見、また朝八時の軍艦旗掲揚、夕方日没の軍艦旗降下の時に鳴るラッパ「君が代」は静かなサンタス港内に響きわたり、感激もまた一しおであった。岸壁に集まっていたサンタス周辺の日本移民の方々は、この光景を見て涙を流す人もあつたし、なかでは三日もかかって日本の軍艦を見に来たという老人は、感激して、もういつ死んでも心残りはない、といつていたのが特に印象的であった。

5. パナマ運河へ

アメリカ、ヒューストンとニューオリンズの二港揚げの鋼材を満載した不定期貨物船、春日丸(18,000トン)は、昭和48年4月2日未明、名古屋港を出港、順調に航海をつづけ、太平洋を横断、4月18日メキシコ、アカプルコ沿岸にたどりつき、あと沿岸航海にうつり、4月23日夕方パナマ運河入り口(バルボア沖)に投錨、パナマ運河委員会の指示により、翌24日早朝、水先人が乗船し、運河通航を開始、同日夕方運河を出て、大西洋(カリブ海)に入った。パナマ運河について少し延べてみると、この運河は、かってスエズ運河を完成させようとフランス人技師レセップスが、スエズ運河と同じ要領で掘削だけを作つて完成させようとしたが、予想外の難工事と黄熱病の蔓延のため失敗し、アメリカがこの工事を引き継ぎ幾多の困難を克服して、1913年に完成させた。太平洋側から大西洋側に通り抜けるには、最初ミラフロレス水門、ついでペドロミゲル水門を通り越すと、水面は太平洋の海面より約25.5メートル上昇し、ついで長く狭い掘削を通り、ガツン湖という大きな湖に入り、それからガツン水門に入って水面に二段階にわたつて下降して大西洋の海面と同一となり、クリストバル沖に出て、大西洋に出る。このいずれの水門も丁度ドックの水門なうになつていて、船が水門内に

入ると、水門の扉が閉まり水門内にポンプで注水されたり、排水されたりしてドックの前方の水面とドック内の水面が同一になればドックの前の扉が開き、船はドックを出て、前に進むような仕組みになつており、この運河の全長は、54浬(海里) 通航開始から運河を出るまでの所要時間は約8時間、運河入り口での待ち時間を合わせると約20時間で通航を終わる。バルボアからガツン湖までの両側は、熱帯雨林で景色抜群、鳥の声もよく聞こえ、この世の楽園の感がある。したがつて観光客も大分あるらしく、ペトロミゲル水門には展望台もあり昼間はよく観光客の姿が見られる。ペトログミエル水門からガツン湖に至る間は狭い水道でつながつておりその中间にはゲイラード堀割と呼ばれる幅約152メートルの掘り割りがあり

運河の最狭部でありこの運河最大の通行の難所である。この運河工事はこの堀割を切り開くのに多数の犠牲者を出したので、白い石の記念塔が建つてゐる。この運河はかつてアメリカが管理していたが、1999年12月31日全般的にパナマに返還された。

6. ヒューストンへ

大西洋へ出た本船は、カリブ海を北上し、メキシコとキューバの間のユカタン海峡をへて、メキシコ湾に入り、テキサス州の沿岸に近づくにつれて、石油の油井の櫓が多くなり、この間を注意深く航過して、ヒューストン港外のガルベストン沖に4月29日夕方到着、水先人が乗船して、同日夜半にヒューストンに入港した。ヒューストン入り口には、太平洋戦争中に活躍した戦艦テキサスが記念艦として係留保存されていて、その艦尾には星条旗のかわりに、テキサス州旗が掲げられていた。テキサス州はもとはメキシコ領であつたのでメキシコ系の人が多く、彼らは、メキシコ人であることを誇りにしている。またこの州は非常に裕福であり、アメリカに頼らなくとも自活できるらしく、州意識が大変強く、いちじはアメリカから独立しようとしたこともあるらしい。街で見かける男たちは、テキサスハットを愛用し、ロデオや牛の角を手でつかんでねじ伏せる競技などを楽しんでいる模様である。

テキサスは気候の変化が激しく、日本で「男心に秋の空」という言葉があるが、ここでは「テキサスの天気と女心の変わり易さ」といわれている。アメリカの港に入ると、かならずといって、牧師さんが、来船し、日本語のキリスト教関係の本を沢山おいたゆき、サービスで市内見物に連れて行ってくれる。今回はヒューストンのNASAを見学させてくれた。

第11号につづく

